



地域の特徴

北秋田市には、県立自然公園に指定される森吉山を中心にブナ原生林が広がっている。また、一級河川の米代川とその支流が複数流れている。これらの河川では、アユやサクラマスなどを対象とした遊漁が盛んである。小猿部（おさるべ）川は北秋田市を流れる河川の一つであり、鷹巣で米代川に合流する一級河川である。



小猿部川の現状

小猿部川を管轄する鷹巣漁業協同組合はアユ、ヤマメ、イワナの稚魚放流を行っている。しかし、近年、特にアユの資源量が減少している。資源減少の要因としては、現在、小猿部川の河床の沈み石化が進行しており、アユを含めた魚の餌場や定着する場が消失していることが考えられる。

また、近年、地域住民の川離れが深刻化している。地域住民の河川環境や身近な自然環境に対する関心の低下によって、河川周辺のゴミが増加するなど環境が悪化している。

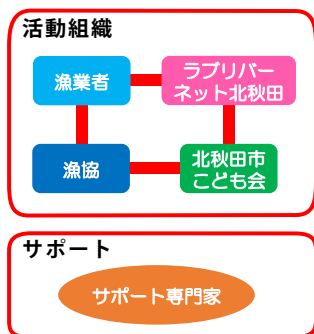


底質の粒度が細くなり、大きな石が沈下

組織の設立及び活動方針

上記の経緯のもと、親水性の維持と河川環境の改善を目的に、平成26年度に「小猿部川の伝統漁法を守る会」が設立された。当会の体制は、鷹巣漁協組合員、ラブリバーネット北秋田、北秋田市子ども会を中心に計26名で構成した。

当会の活動方針は、河川清掃や環境学習（伝統漁法体験）による地域住民の河川環境への理解増進と、河床耕耘による環境の改善である。地域住民の理解を得て、河川の荒廃を防ぎ、小猿部川の豊かな環境を後世に残す。また、河川環境の改善により、アユを始めとした生物の資源回復を図る。



活動実績

環境学習（伝統漁法体験）は年に1回開催。専門家による座学、伝統漁法（ヤナ等7種類）の実演・説明、伝統漁法によって漁獲された魚の観察、アユや川ガニの試食を実施している。参加者の多くは地元の親子である。

河川清掃は鷹巣漁協組合員を中心とした地域住民やボランティアによって、年に約6回実施している。

河川清掃によって、周辺環境は改善されたが、水産資源の維持には手ごたえを感じられなかったことから、H30年度より河床耕耘を開始。

河床耕耘は、アユが居付くと思われる場所で実施しており、年に3回、

ショベルカーと手作業によって行っている。



環境学習

河川清掃

河川耕耘

活動の効果と課題

環境学習（伝統漁法体験）は当事業の開始前から実施しており、地域の教育関係者や保護者からの評判が良く、地域に定着した活動となっている。また、当活動へ参加した子供の中から鷹巣漁協組合員が数名出しており、後継者育成にも寄与している。

河川清掃の継続によって、景観の維持とゴミの増加を抑制することができている。また、河川管理者からも評価を受けており、不法投棄物の早期発見・処理にも貢献している。

河床耕耘の効果は、耕耘後の全てのモニタリング調査結果において、採捕した魚類個体数が対照区より耕耘区で多かった。また、R元年からR2年の河床耕耘前の事前調査の経年変化をみると、R2年の耕耘区における個体数が大幅に増加し、過去2年採捕されなかったアユも確認することができた。さらに、R元年度以降は、目視観察において耕耘区内でアユの食み跡や群れ（約15~30尾/群）を4~6群視認することができ、その資源の増加を実感している。

一方で、河川工事の影響から、河川内の石が泥で覆われ、アユの餌となるコケ等が繁茂しづらくなっており、引き続き河川環境の改善が必要と考えられる。また、当活動組織の中心である鷹巣漁協の組合員の高齢化により、各活動における人手不足が懸念されるため、環境学習を通して後継者確保を図る。

河床耕耘のモニタリング調査結果

